

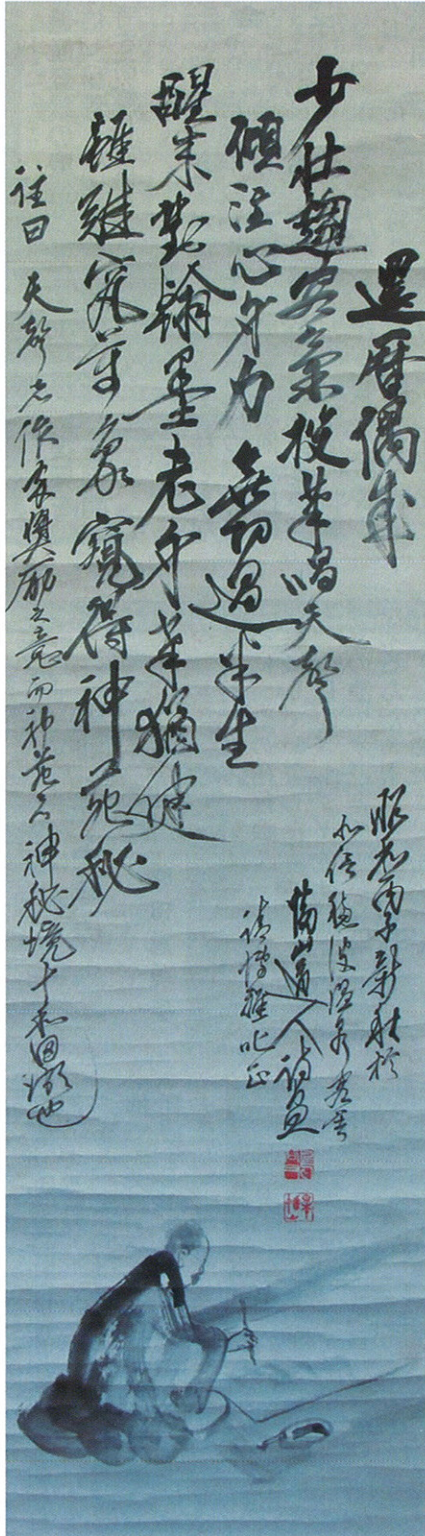


鷹山宇一記念美術館友の会会報

第 68 号

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

平成 24 年 9 月 15 日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
〒 039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



▶ 鳥谷幡山「遠暦偶年、自画像(仮称)」(紙本墨画、1993年)

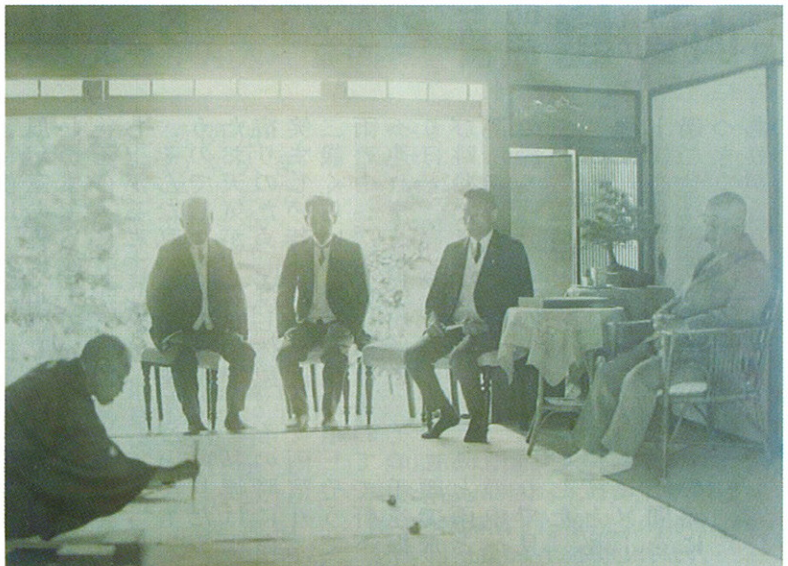
当美術館収集作家の一人として顕彰される日本画家・鳥谷幡山(とやばんざん)の作品がこのたび新たに収蔵されました。幡山の調査研究に役立ててほしいとの大変有り難いお申し出をいただいたものです。その軸装の墨画(左)は、還暦という一つの節目の年に、幡山が、自らの悲願を達成した「ある出来事」を詠ったものと思われまます。

もともと「学芸員」として精進していたならば、確信的な見解をここでこ披露できたはずですが、凡庸で不勉強な私に今言えることは、彼が「神苑霊湖」十和田湖の素晴らしさを広く世に知らしめ、国立公園指定へと、心身共にその半生を捧げた成果が結実したことを「神秘境十和田湖」のなせる技と讃えている…それがこのたびの作品ではないかと推察されます。奇しくもこの作品が制作された年と同年の1936(昭和11)年2月1日、十和田湖・奥入瀬、八甲田山の一部が「十和田国立公園」として指定されています。ここに至るまでの幡山の「十和田湖」に対する一連の行動は多方面にわたりました。鳥谷部春汀ら在京の郷土出身者たちと密に交流しながら、政財界、宗教界、文学界、そして皇室にまで人脈を広げ挺身しました。それは、絵画で十和田湖を表現するという、画家ならではのメリットを活かしての、説得力のある活動を展開したからこそ「悲願達成」ではなかったでしょうか。

写真(右)は、当美術館収蔵の幡山作品の核となった20作品と共に、野谷善達氏(幡山(令孫)より七戸町に寄贈されたものです。皇室との人脈により、十和田国立公園指定へと幡山が大きな役割を果たした「証拠写真」とも言えます。撮影された年月日は不明ですが、写真に表された幡山と今回寄贈された軸装の自画像とを併せて鑑賞できるこの好機を得たことで、本作品の制作年と同年か或いはそれ以前…つまり国立公園指定の悲願に挺身した幡山の活動の一端を知ることができる大変貴重な資料であることを、あらためて確認することができます。

只今11月11日までの常設展で鳥谷幡山の作品をご紹介します。この機会に是非ともご鑑賞ください。(学芸員・大池亜希子)

旧皇族・梨本宮様の御前で十和田湖を描く鳥谷幡山
「十和田湖」を題材に描き続けた幡山の、幅広い活動を知ることができる資料です▶



鷹山宇一記念美術館友の会 平成24年度第1回研修旅行
 「世界文化遺産 中尊寺 秘佛 一字金輪佛頂尊座像展と毛越寺」

このたび世界文化遺産登録の慶賀と東日本大震災の復興を祈念し、十二年ぶりに「秘佛 一字金輪佛頂尊座像」を御開帳した中尊寺と毛越寺を研修して参りました。

甘雨かな
 縁深める友の会

八戸市 中村祐子

平成二四年七月二九日、友の会一行は本年度第一回研修旅行として昨年世界文化遺産に登録された中尊寺へ出掛けて来ました。

当日は澄み渡る青空と言うには聞こえはいいのですが暑さの中、奥羽山系を横目に高速道路をひたすら南下しました。

まずは雅な浄土庭園で有名な毛越寺へ。境内には明治神宮から分譲献進されたアヤメに迎えられ、蓮・桔梗・萩が咲いていました。昼食・小休止の後は団体旅行の特権とも言えるショートカットをし、中尊寺蓮のメインである秘仏御開帳へ向かいました。一字金輪佛さまはおちよぼ口とも言える小さな口元に朱色が施されていて、より肉感的な印象でした。言い伝えによると三代秀衡公の私的な念持仏であったとのことだ

が、さすがにみちのくの主様ともなれば手の平サイズではないのですねと感心するばかりです。讃衡蔵拝観後に雨に降られたのはもう少しゆっくりにお進みなさいという先達のお導きであったかもしれない。欲談の花が咲き誇ります。金色堂から紫陽花や山百合に見送られて、月見坂を下る際、通り雨の後なので涼しくなるかと期待を寄せましたが湿度上昇を体感することとなりました。個人的には建物の建築デザインに関心があり、各所の瓦の美しさが印象的でした。



中尊寺・金色堂前で記念写真

二つのゴージャス・毛越寺・中尊寺
 東北町 原田恵美子

常々行ってみたいと思っていたところ、この研修会でしたので、楽しみにしていました。一つ目のゴージャスは、毛越寺の幽玄の池です。とてつもないことを考えるんだあー。と、凡人の私はガイドさんの説明に、唯々頷くばかりでした。



毛越寺前で記念写真

二つ目のゴージャスは、とにかくにも、まあゴージャスとしか言いたくない金色堂。昔も今もゴージャスに見とれている私がそこにいます。

た。(ちなみに、原田家のお墓は自然石で素朴。)
 また、今回は讃衡蔵で特別展の秘佛である「一字金輪佛頂尊座像」を拝観することができました。平山郁夫画伯も描いておられます。



一字金輪佛頂尊座像

秘佛は、静かで穏やかな佇まい。展示室の畳に正座して向き合うと、いつまでも座っていたくなるほどで、後ろの人にせかされて、ようやく立ち上がる私でした。

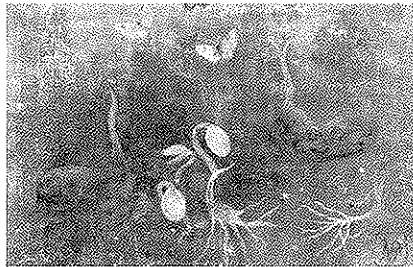
そんな私の熱を冷まそうとでもいうのでしようか。かんかん照りだつたお天気が、急な雨です。私達は雨宿りのためしばし休憩。その時に微笑ましい若い親子も近くで雨宿り。二歳くらいの坊や、雨が嬉しそうで、雨の中へ。お母さんはあわてて軒下へ連れ戻します。坊やはその手を振りほどき雨の中へ。ここに顔で飛び跳ねたり、空を見上げたりと雨と遊んでいるのです。軒下と雨の中への繰り返しがおかしくて、周りで見ている人達もやさしい笑顔でした。二つのゴージャスな世界遺産と秘佛に魅了され、微笑ましいエピソードに心なみ、ステキで幸せな時間を過ごせたことに感謝しながら帰路につきましました。

新収蔵作品のご紹介

このほど、当財団へ、鷹山宇一をはじめ七戸町にゆかりの深いアーティストたちの作品の寄贈のお申し出をいただきました。ここに感謝の意を表すると共に、紙面をかりてご紹介させていただきます。

このたびの秋山庄太郎写真展の開催を機に、秋山庄太郎写真芸術館様のご協力により、鷹山宇一ゆかりの作品の寄贈について有り難いお申し出をいただきました。当館の今後の展示活動についても、秋山芸術を知る上でも、大変意義深い貴重な作品をご提供いただくこととなり、深く感謝申し上げます。寄贈作品は秋山庄太郎先生が撮影した『月刊美術』連載の「現代日本の作家たち」から、鷹山宇一を撮影した際のネガ・ポジフィルム、額装された肖像写真、そして先生のコレクションの絵画等です。

また、当館収集作家の一人として顕彰される日本画家・鳥谷幡山の掛軸1点について、神奈川県在住の原田雅史様より寄贈の申し出をいただきました。今後の幡山研究に役立ててほしいとの善意を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。新収蔵となりました幡山作品は、還暦の節目に詠んだ詩と自画像とが描かれた墨画です。



▲秋山庄太郎先生の審美眼による約400点の日本画コレクションより、①工藤甲人の舟越保武の版画、織田廣喜の水彩画等計8点をご寄贈いただきました。秋山先生はこれら作品を真身近に日々眺めていたといわれます。毎日の生活の中で絵画などのアート作品を鑑賞するという習慣が、自身も自然に鑑賞するということにつながり、何よりそういうものを愛する気持ちが写真の仕事に滲み出ているのだと、大切にされていたそうです。愛用の絵画を通して秋山芸術の神髄に触れることができます。大変貴重な作品群です。



▲幡山作品をご寄贈くださいました原田雅史様、お嬢様、そして奥様。三戸町の奥様の実家へ帰省された際、当館まで遠路足を運んで作品をお届けいただきました。

特別展のご案内

11/18(日)～2013 1/27(日)

第12回鷹山賞児童作品展
& 地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

鷹山宇一の感性を育んだ七戸町を中心とした、青森県南部一帯の小学生に作品を募集する「鷹山賞児童作品展」。今年は第12回目を開催。応募された作品の中から、入賞・入選作品をご紹介します。現在9月15日の締切を前に続々と美術館へ作品が寄せられています。テーマ・表現方法は自由！どんな作品に出逢えるのか？只今、10月3日の審査会に向けてワクワクした気持ちで準備中です。

平成23年度第11回鷹山賞児童作品展



どきどきの表彰式！
未来のアーティスト
たちの誕生です！



こちらまで元気になり
そうな、素敵な作品
がいっぱい！



鷹山賞では入選・入賞者へ贈られる賞状に、受賞した作品も印刷されます。写真には鷹山賞受賞者へ贈られる副賞です。鷹山先生のお孫さんで彫金作家の片山雄介先生が制作しています。

また、本展に併催して、一般財団法人日本品質保証機構、国際認証機関ネットワークが主催する、世界各国の子供達に「地球環境」をテーマに作品を公募した「地球環境世界児童画コンテスト」からも優秀作品をご紹介します。是非、子供達による絵画展へお出掛け下さい。皆様のご来館を心よりお待ちしております。



第12回地球環境世界児童画コンテスト
優秀作品展「地球環境特別賞」
Heberle Jane スロベニア、7歳

秋山庄太郎写真展

からレポート!

青森放送株式会社様のご共催を頂き

7月15日から9月17日まで「秋山庄太郎写真展」を開催して参りました。

本展は原節子や高峰秀子等往年の女優達を知る世代や写真がお好きな方が多くいらっしやっただように思えます。美しい花々や懐かしい女優さん達の姿に皆様うっとり。しかしながら、秋山庄太郎の人生を振り返る一連の作品群からは、彼の決して平坦ではなかった人生が伝わってきます。苦難や困難を逆に作品を生み出すパワーにしてみまう、秋山の芸術と人間性に触れ改めて「今、自分に出来ることは何か?」を考えるのでした。

7/14(土)開儀式キンドレキョウ



開幕を祝してのテープカットを行いました。左から富士孝衛当財団理事長、七戸町名誉町民・盛田稔様、秋山庄太郎写真芸術館長・上野正人様、七戸町長・小又勉様、青森放送株式会社十和田支局長・竹内愛一郎様にご参加頂きました。

7/14(土)15(日)

秋山庄太郎写真芸術館長・上野様によるギャラリートーク



初期から晩年の作品に触れながら、写真家・秋山庄太郎を身近に感じる事ができる貴重なひと時でした。秋山先生のユーモア溢れるエピソードに皆様につこり

ピアノスト・中村由利子様によるピアノコンサート



被災地支援メロディの「えがおの日まで」を演奏して下さいました。お客様のリクエストに即興演奏という素敵なサプライズも!

7/22(日)茶道裏千家七戸会

によるお呈茶



ご来館のお客様に、ほっとひととき、やすらぎの空間をご提供くださいました。ありがとうございました。

8/1(水)水南部藩児童交流

七戸町と岩手県遠野市との児童交流事業の子供達が美術館を訪れました。「絵馬」について学習した他「秋山庄太郎写真展」や鷹山作品を鑑賞しました。記念に当館ワークシヨップでおなじみの銀細工を用いたキーホルダー作りに挑戦!



世界にたった一つ、自分だけの作品を制作!!お友達との思い出をいつまでも大切にして下さい★

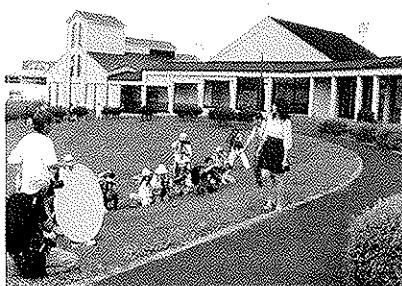
第72回国際写真サロン展

「秋山庄太郎写真展」と併催し、開催した「第72回国際写真サロン展」は、8月25日(土)〜9月9日(日)まで開催され、多くの写真愛好家で賑わいました。開催初日には、全日本写真連盟関東本部委員長の伊藤康雄様をお招きしての研修会や講評会、同連盟青森本部主催によるモデル撮影会等が行われました。

イメージで撮る



伊藤様に、撮影方法や本展審査のポイント等をお話し頂きました。



美術館中庭でのモデル撮影会は、絶好の撮影会日和となりました。

まやぶどうごきんぐ

Love♡しゅのへせ戸町の希望のひかりた

▶た展も子ども写真展
も写真をスタッフ希望の
は、子どもたちと一緒に
館内では、子どもたち
の写真をステッカーに
作り、灯籠に飾りつけ
ました。まさに七戸の
「光」が結集です。



フクシマ通信

鷹山守一美術部

はじまりました

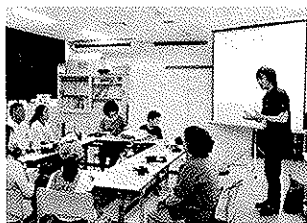
写真教室①・②より

●今年度第1回目の教室は、8月26日(日)、写真家・奥山洋一氏(写真のオクヤマ十和田店社長)をお迎えして、「デジタルフォトレッスン」を開催致しました。

町内外から、3組の親子を含め9名の方が参加した写真教室！前半のスクリーンを用いて行われたカメラの基本的な使い方や撮り方の説明に、熱心に耳を傾けカメラ操作を学習。後半は、中庭に出て、前半に学んだ撮影法を念頭に、草花など身近に広がる風景

今年3回目の開催となる「まちかど美術館」は、七戸町の全ての保育園・幼稚園計7園に在籍する5才児さんを対象に、「七戸町の好きなところ」をテーマに作品に表現してもらおうというもので、町中の商店の一角に作品を展示する、「子ども」+「お店」+「美術館」によるコラボレーション展です。毎年、子どもたちならではの、「コトクで心あたたまる作品にほんわか癒される」そんな美術展ですが、今回は、「秋山庄太郎写真展」の開催にちなんで、七戸町の好きなところを思いのままに「写ルンです」で撮影してもらいました。

一人につき1個、全部撮り切っちゃってください！とお渡しした「写ルンです」で、現像するまでは「なにがどのよう」に写ったか？わからぬ、アナログな写真撮影に、デジタル世代の子どもたちは意外にもお楽しみいただけました。現像した作品は、すべてをイン



から題材を見つけては撮影したり、また、親子で撮り合ったりと、皆さん真剣に取り組みました。最後は撮った写真の見せ合いっこ...お互いのいいところ、思いもよらない切り口などなど新たな魅力の発見です！記念に残るすてきな一枚が撮れていることでしょう。

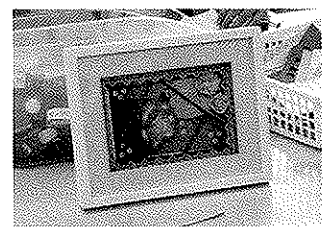
●9月2日(日)には、写真のオクヤマ十和田店よりグラフィックデザイナー・スクラップブックングデモンストレー

デックスプリントにしてご紹介するとともに、お気に入りの渾身の1枚を選んでいただき、そのコメントと、撮影したカメラマン(5才児さん)本人のポートレートとともに展示しました。

今年ご協力をいただいたお店は14店。5才児さん106人！ありがとございます。「しちのへ秋まつり」が開催された9月7日~9日までの3日間、にわたり展示し、町内外の多くの方々にご紹介できました。素直な心で七戸町のいいところを表現した子どもたちの作品の数々に、町の新たな魅力を発見された方も多かったのではないのでしょうか。

町の、社会全体の、明るい未来を担うのはこの子どもたちです。子どもたちの健やかな心、感性を育み、支え、見守っていくのは美術館の大きな役割のひとつと、18年の学芸員生活を経て確信しています。「アート」が人類の長い

ターのウメタエリコ氏をお迎えして、第2回目の写真教室を開催致しました。写真や額を柄付きのマスキングテープやシール、画用紙の切り抜きなどで自由にデコしていくスクラップブックングの教室です。第1回目に教えて頂いた撮影方法を使って撮った写真をご持参の方もいらっしゃいました。活かしていただけると、とても嬉しいですね。



歴史の中で絶滅することなく今に伝えられているには、人間にとって無くてはならないものだからです。それは、道楽でも贅沢でもなく、絵や写真やアートな作品をヒトが作るという行為にも共通する「想像する心」なくして、人間は生きられないからではないのでしょうか。「想像する心」思いやり心です。人間ならではの「美しい心」を育み、取り戻す「術」が美術であり、最終的な美術館の役割がここにあるのだと思います。鷹山美術館も開設当初の理念はそうでした。「ヒト」づくりの「場」としての美術館を目指していたはず。時流に乗っていい方向へ「変化」していくことはもちろん大切です。が、しかし、岐路に立った時、大事な局面で判断を誤らぬためにも、子どもたちには是非とも「審美眼」を鍛えてほしいものです。

デコレーションが始まるとみなさん無言です。たくさん種類のマスキングテープに目をみはり、どれを使うか迷いながら作品を仕上げました。いつもの写真とは、ひとあじ違った完成にみなさんご満悦でした。

次回の鷹山守一美術部【予告】
▼10/21(日)「ロザイ」



*紙で作る「バラ」のアクセサリーです。小物入れなどの「デコ」し「ション」にも参加申込み受付中！美術館迄お電話ください。お待ちしております。

● 美術館日誌 ●

【6月】

- ▼1日/美術館冷暖房切替、点検(三光電気)
- ▼4日/青森放送様「金山平三十鴨居玲展」取材の為「来館、大池学芸員対応」
- ▼6日/船山館長、東京出張7日迄(織田廣喜先生の通夜へ出席。おもてなしワークショップ「ご当地ストラップづくり」2名様を受付、実施)
- ▼9日/友の会総会
- ▼12日/天間東小学校13名引率2名様ご来館
- ▼14日/七戸南公民館講座「アートのたしなみ(金山平三十鴨居玲展)」当館を会場に開催講師・大池学芸員。美術館地下オイルタンク検査・清掃
- ▼15日/船山館長、自立支援協議会へ出席
- ▼16日/おもてなしワークショップ「ご当地ストラップづくり」2名様を受付、実施。船山館長・大池学芸員・竹内学芸員、三沢市出張(十和田市現代美術館、三沢市寺山修司記念館との3館連携事業打合せ)。当財団平成24年度第2回評議員会開催
- ▼17日/七彩会油絵教室開催。日本ツアースーツ35名様「来館」
- ▼19日/美術館消防設備定期点検(昭和電気)
- ▼20日/美術館自動ドア定期点検(ナブコ)
- ▼22日/南部藩児童交流実行委員会に

織川出席(七戸庁舎)。美術館コピー機点検(リコー)

- ▼23日/友の会会報第67号発送作業
- ▼24日/「金山平三十鴨居玲展」最終日
- ▼25日/町内高齢者施設、保育園幼稚園招待日
- ▼26日/展示替えの為休館6/29迄。金山平三十鴨居玲展作品梱包・搬出作業。船山館長、3館連携ぐれっとパス事業記者会見へ出席(現代美術館)
- ▼29日/おもてなしワークショップ「シルバークセサリーづくり」3名様を受付、実施

【7月】

- ▼6日/船山館長、七戸町教育委員会評価審議会出席
- ▼8日/七彩会油絵教室開催
- ▼9日/「秋山庄太郎写真展」展示替え作業の為休館7/14迄。美術館ポイラー水漏れ修理(三光電気)。青森大学講座(絵馬館見学。秋山庄太郎写真芸術館・館長上野正人様「秋山庄太郎写真展」展示作業の為「来館」)
- ▼13日/東奥日報社様、船山館長を取材。中村由利子様・嵐マネージャー、秋山庄太郎写真展「ピアノコンサート」の為「来館」
- ▼14日/「南部藩児童交流事業」事前学習の為、七戸町の参加児童が絵馬館を見学。「秋山庄太郎写真展」開催式・テープカット・ギャラリートーク(講師・秋山庄太郎写真芸術館・館長上野正人様)&ピアノコンサート「ピアノ二スト・中村由利子様開催(1日目)」
- ▼15日/「秋山庄太郎写真展」初日

(9/17迄。ギャラリートーク&ピアノコンサート開催(2日目))

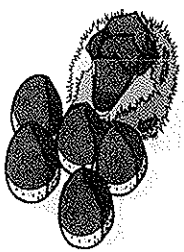
- ▼17日/船山館長、七戸町教育委員会評価審議会出席
- ▼20日/青森県立美術館特別展「Art and Air展」オープニングセレモニーに船山館長、竹内学芸員出席
- ▼21日/「茶道裏千家七戸会」お呈茶準備作業
- ▼22日/「茶道裏千家七戸会」によるお呈茶のサービスマス実施
- ▼25日/船山館長、警察友の会納涼会へ出席
- ▼26日/船山館長、商工会サービス部門幹事会へ出席
- ▼28日/船山館長、あぜりあ苑夏祭りへ出席
- ▼29日/おもてなしワークショップ「木版画」2名様を受付、実施。友の会研修旅行「世界文化遺産中尊寺の旅」実施

【8月】

- ▼1日/開館記念日。七戸町民広報無料招待券利用日。「南部藩児童交流事業」参加児童39名引率12名様「来館」(銀細工講座を体験)
- ▼2日/七戸町教職員初任者・赴任者ふるさと学習22名様「来館」(船山館長「夏休みかたれ塾」へ出席(4日まで))
- ▼6日/3館連携事業ぐれっとパスツアー第1回ツアー開催(鷹山宇一記念美術館が添乗担当)
- ▼7日/船山館長、民生委員会へ出席
- ▼8日/青森放送様、「秋山庄太郎写

真展」取材の為「来館、竹内学芸員対応」

- ▼11日/神奈川県在中原田雅史様「来館、鳥谷幡山の掛け軸1展をご寄贈下さる」
- ▼15日/おもてなしワークショップ「ご当地ストラップづくり」1名様を受付、実施
- ▼21日/城北保育園22名、引率2名様「来館」
- ▼22日/船山館長、JAF会員優待施設連絡会へ出席(アツプルパレス青森)
- ▼24日/「第72回国際写真サロン展」展示替え作業の為、スペイン民芸資料館休館
- ▼25日/「第72回国際写真サロン展」初日(9/9迄)。写真教室&モデル撮影会開催(講師)全日本写真連盟(関東本部委員長・国際写真サロン審査委員・伊藤康雄様)
- ▼26日/芸術文化観光推進事業「鷹山宇一美術館」開講、「写真教室」を開催
- ▼29日/美術館「コピー機納入、設定(リコー)」
- ▼30日/七戸南公民館講座「アートのたしなみ(秋山庄太郎写真展)」当館を会場に開催講師・大池学芸員。明照保育園13名引率2名様「来館」



第5回友の会海外研修
「オランダ・ベルギー」
美術紀行Ⅱ

4月催行のオランダ・ベルギー
美術紀行の紀行文をお寄せ頂き
ましたのでご紹介いたします。

オランダ・ベルギー

美術紀行に参加して

七戸町 工藤喜代子

美術にあまり関心のない私は、今回はあこがれのオランダ・ベルギーということで美術紀行というより美
景紀行の目的で参加したようなもの
でしたが、一日目アムステルダム
国立クレラー＝ミュラー美術館では
誰もが知るゴッホの名画が一同に集
結しており、私でも知っている作品
がたくさんあり、ワクワクしながら鑑
賞できました。写真撮影も自由に



国立クレラー＝ミュラー美術館
ゴッホ「夜のカフェテラス」前で



でき、名画と一緒に写真をとれたこ
ともとてもいい思い出となりました。
次に訪ねた世界に名だたる画家の
作品が一堂に会したアムステルダム
国立博物館では、ゆっくり、じっく
りとヨハネス・フェルメールの静寂
感あふれる「牛乳を注ぐ女」「手紙
を読む女」「小路」レンブラントの
世界三大名画「夜警」を心行くまで
堪能でき、美術に対して一気に関心
が高まった初日となり、今回の紀行
の好スタートを切る事ができました。
そして、北のモナリザとも称さ
れる、フェルメールの代表作「真珠
の耳飾りの少女」は、振り返って私
をじっと見つめているようで引き込
まれそうな感じを受けました。美術
にあまり関心のない私でしたがこの
絵が大好きになりました。大好きな
ものが増え、心が豊かになったこと
も今回の旅行の収穫です。
また、「アンネの日記」の舞台に
なったアンネの家、東京駅のモデル
となったアムステルダム中央駅、オ
ランダと言えはチューリップ、まさ
に百花繚乱！見渡す限り花の世界を
堪能できたキューケンホフ公園、田
園地帯に立ち並ぶ世界遺産の風車見
学、お隣の国ベルギーでは「フラン
ダースの犬」の舞台で知られるアン
トワープ、世界で最も美しい広場
「グランプラス」などなど美景紀行
も十分満足できた今回の紀行に参加
でき本当に良かったと思います。
そして、一緒に参加した皆様と温
かい交流ができたことも一つの宝物
となりました。この紀行を企画して
頂き、本当に有難うございました。

わたしの おすすすめ 美術館

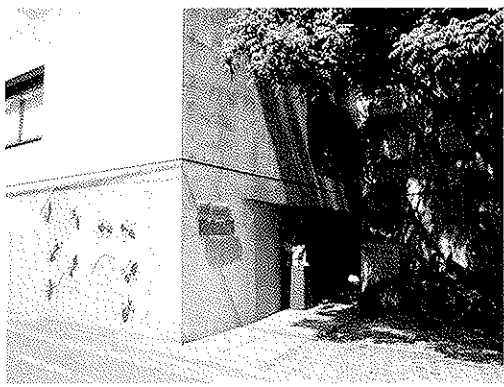
東京都豊島区立

熊谷守一美術館

七戸町 戸館榮一

ずっと行きたいと思っていた「熊
谷守一美術館」を、ようやく訪れる
ことができました。美術館のコンク
リートの壁面にアリの姿とカタカナ
で「クマガイモリカズ」と書かれて
おり、モリカズワールドがお出迎え
です。今はその面影を感じることは
できませんが、池袋モンパルナスの
一角をなす場所だそうです。

美術館は熊谷守一の次女、榎（か
や）さんが父親の旧居に一九八五年



豊島区立熊谷守一美術館

に私設の個人美術館として設立し、
二〇〇七年十一月六日から東京都豊
島区立熊谷守一美術館となりました。
そして現在は、「株式会社 榎」が
豊島区から指定管理者として美術館
の管理運営を受託し、榎さんが館長
を務めておられます。

美術館の一階、第一展示室は常設
展示室として、「アゲ羽蝶」「自画
像」「白猫」など油絵を中心に、掛
け軸・ブロンズ・絵付けした器など
三十点余が展示され、二階の第二展
示室には、墨絵の「蟻」「がま蛙」
や書「寂」「五風十雨」を中心にオ
イルパステル画など三十点余を展示
しています。三階ギャラリーは貸ギ
ャラリー・企画展示室となっており
ます。私が訪れた時は、熊谷守一の
リトグラフや版画が展示されており、
全館熊谷守一の作品を楽しむことが
出来て、嬉しい訪問となりました。

一階の喫茶コーナー「Cafe
Kaya」でスタッフのTさんとI
さんともお話しすることができまし
たが、日常の管理運営には、とても
ご苦労されている様子でした。

会員の皆様も東京へお出かけの節
は、ぜひ熊谷守一美術館に足をお運
び下さい。豊かな時を過ごせます。

熊谷守一 美術館へは

- 東京都豊島区 要町駅
- 徒歩10分 榎名町駅
- 開館時間 10:30 ~ 17:30
- 休館日 毎月曜日 (ほか年末年始等)
- 入館料 一般500円
- 〒171-0044 豊島区 千早 2-27-6
- TEL 03-3957-3779
- ホームページ <http://kumagai-morikazu.jp>

「奈良美智-君や僕にちよっと似ている-」 & 「棟方の祈り」

平成24年度友の会第3回研修旅行をご案内致します。

平成24年度 第3回研修旅行

日時:平成24年11月11日(日)8:30~
 研修先:青森県立美術館・棟方志功記念館
 参加費:4,000円(入館料、昼食費含む)
 募集人員:35名(最少催行人員は20名)
 募集締切:平成24年10月31日(水)
 お問合せ・申込先:鷹山宇一記念美術館
 集合場所等詳細は、申込者にお知らせ致します。

棟方志功記念館

平成24年鎌倉市・棟方板画館を吸収合併したことにより、収蔵作品数は国内最多を誇るようになりました。今年度はその充実した作品群から年4回の展示替えを行っております。



追開心経頌より自在の柵

“2012年の現在、レゾネ制作や震災、オディエンス層の拡大、あるいは不当な評価、数々の展覧会での経験、自身の加齢：いろいろな理由から、僕は作品を自分の元から旅立たせること(作品自体としての自立)を現実的に考えられるようになったようだ。”
 ——奈良美智



青森県立美術館 HPから転載

平成10年から奈良美智の作品を収集してきた青森県立美術館では、開館以来、常設展示でその活動を紹介してきましたが、個展の開催は今回が初めてです。本展では、近年、多様な経験の積み重ねの中で、創作の原点を強く意識し始めた奈良の、絵画やドローイング、初挑戦となるブロンズ彫刻など、新作の数々を展示いたします。奈良美智のあらたな世界をお楽しみください。

友の会会員登録の更新と
新規会員登録入会お誘いのお願ひ

平素から会員の皆様には友の会の運営に多大なお力添えをいただき、誠にありがとうございます。今後とも鷹山宇一記念美術館への応援をよろしく御願ひ上げます。友の会では会員の皆様方に芸術・文化に一層親しんでいただけるように研修旅行、講演会等を企画し、微力ながらも地域文化の振興に寄与していく所存ですので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2~3回)
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員 (個人) 年度会費 3千円
 特典 ①無料入館券3枚、会員証提示により入館料2割引

○特別会員 (個人・法人) 年度会費 1万円
 特典 ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館
 ②新規加入の方に画集1冊贈呈
 ③研修会、講演会への招待、優待
 ④他美術館等の視察研修への優待参加
 ⑤会報の配布

○賛助会員 (個人・法人) 年度会費 2万円
 特典 ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
 ②新規加入の方に画集1冊贈呈

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

★お知らせ

★会費の納入は、随時受け付けておりますが10月1日以降に新規会員登録となった方は、翌年の3月31日までの会費となります。更新手続きがまだの方は、引き続き更新を御願ひ申し上げます。

★会員の方で監視ボランティアにご協力出来る方は美術館までご連絡をお願い致します。

編集後記

会報第68号をお届けします。皆様からの研修旅行記、美術館訪問記、美術紀行文等、たくさんの方の投稿を頂き感謝申し上げます。有り難う御座いました。(T.T)